

平成25年度病害虫発生予察特殊報第1号

平成25年4月16日
愛 知 県

1 病害虫名：イチジクモザイク病
(病原ウイルス：Fig mosaic virus)

2 発生作物：イチジク (クワ科)

3 発生地域：尾張地域

4 発生確認の経過

平成25年1月、尾張地域の施設栽培のイチジクで、葉の萎縮・奇形が生じる被害を複数のお場で確認した。発生株について、愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室において、RT-PCR法によるウイルス検定を行ったところ、本県未発生のFig mosaic virusによるイチジクモザイク病であることが判明した。

本ウイルスによる病害は、平成21年に島根県で初めて確認され、現在までに3県において特殊報が発表されている。

5 病徴

本ウイルスによるイチジクでの病徴は、葉の葉脈に沿った激しい退緑・奇形症状やモザイク症状である(図)。その他、枝では節間の短縮や未着果枝の発生が、また果実では斑紋が見られることがある。なお、症状は樹全体で見られる場合もあれば、主枝単位で見られる場合もある。

6 病原ウイルスの特徴

本ウイルスは、感染した親株を用いた挿し木などによる栄養繁殖によって伝染し、接触伝染や土壌伝染はしないと考えられている。また、海外ではイチジクモンサビダニにより伝搬するという報告がある。

7 防除対策

- (1) 病徴が見られない健全苗を使用する。
- (2) 病徴が見られる樹の枝を挿し木や接ぎ木に用いない。
- (3) イチジクモンサビダニの薬剤防除を行う。

8 連絡先

愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
電話：0561-62-0085 (内線471)



図 葉脈に沿った退緑と奇形